

資料 9

南構成員提出資料

第5回 デジタル行財政改革会議における意見

令和 6年 4 月 22日

ビジョナル株式会社 代表取締役社長

南 壮一郎

システム等の共同調達と同じく、人材の採用・活用においても、知識・手法・好事例を広い範囲で共通化・共有化していくことが重要である。

これまでの繰り返しともなるが、人口減少下の労働力不足により、人材の採用競争は官民間問わず激化している。特に、デジタル・トランスフォーメーションを進められるデジタル人材は労働市場でも限られていることから、採用の難度は高い。

一方、人材の採用・活用を成功させるためには、各組織において適用すべきノウハウや知識がある。そのため、地方自治体を含む公的機関において、DXを推進することが待ったなしの状況のなか、共通化・共有化を推し進めることは必須である。

この観点で、本日は2つの好事例をお持ちしたので、補足資料をご覧いただきたい。

- 我々が公的機関の採用支援に関わってきた中で一番の好事例である、国立高等専門学校での「副業先生」やカリキュラムアドバイザーの採用プロジェクトでは、この約半年間だけでも新たに5校が採用活動を始めることとなり、現時点でも、応募者の延べ数654名のなかから20名の採用に成功している。これは、リクルーターを中心に、人材登用によるメリットや採用ノウハウを共通化・共有化したからである。
- また広島県では、我々が昨年採用支援をした「CIO補佐官」だけでも4名、「共通人材」として採用している。共通人材は県内の各市町に派遣されることで、派遣先市町のDXを推進している。

こうした成功事例の共通点として、採用部門だけでなく、理事長や知事といった経営陣も成果が出るまでやり抜く強い信念を持ち、採用部門と共にチームで取り組んでいるという点があげられる。

前述のとおり、日本では採用競争は激化する一方であり、人材分野では、このように共通化・共有化を進めて採用成功している組織と、自前主義によって採用が困難になる組織の格差は、官民間問わずますます広がっていくと思われる。

こうした共通化・共有化による好事例も参考に、デジタル庁が主導し、採用力強化を進めていくことを期待する。

第5回 デジタル行財政改革会議 補足資料
人材分野における共通化・共有化事例

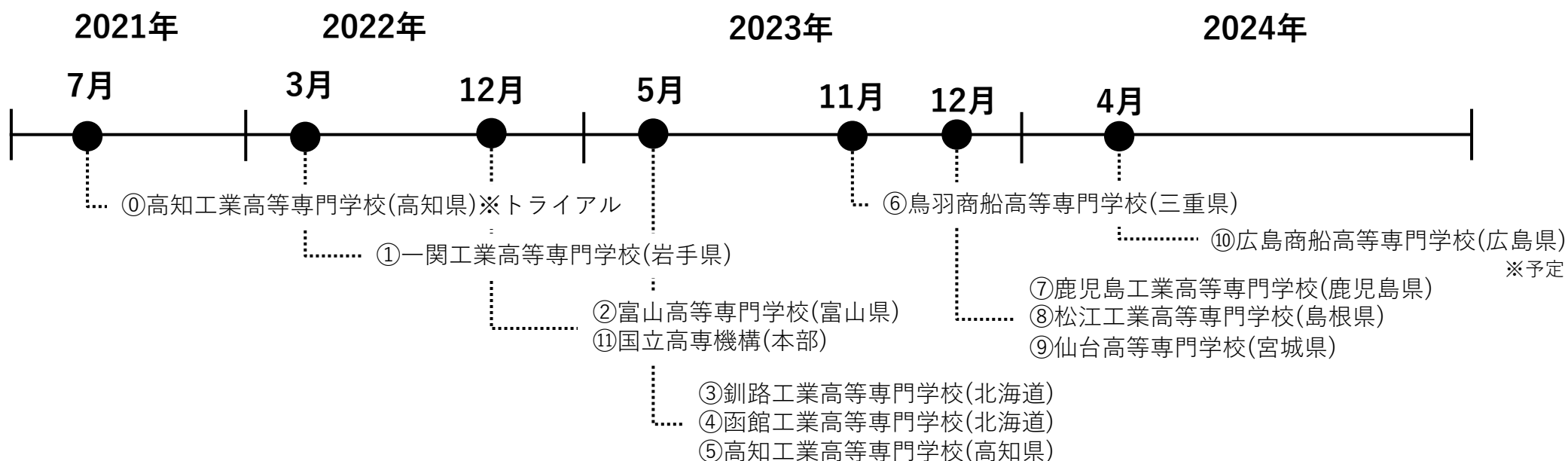
令和6年4月22日

ビジョナル株式会社 代表取締役社長

南 壮一郎

事例：国立高専機構「副業先生」採用プロジェクト

国立高専機構では、各校で外部人材を採用して最先端教育を行うため、**リクルーターを軸として採用ノウハウを共通化・共有化**。現在**全国10校と本部の計11拠点**、応募者のべ**1,516名**、採用決定**51名の実績**。第2回デジタル行財政改革会議（2023年11月）時点では採用準備中だった**全ての学校で採用が成功している**。



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/ch1qmad/>



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/k38aya8/>



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/0xgb2jz/>



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/urwihtr/>



<https://www.bizreach.jp/job-feed/public-advertising/jzdt96u/>

事例：広島県 | デジタル人材の共有を通じた県内DXの推進

広島県では、デジタル人材を県・市・町共同で採用し、共通人材として配属する「DXShip ひろしま」を構築。

募集背景(課題)

- 自治体DXを推進するためには、県・市・町それぞれが主体的にDX施策に取り組むことが必要。しかし県内の多くの市町でデジタル人材の確保が課題となっていた。
- そこで、県で確保した人材1名を2市にモデル的に配属したところ、当該市において、単独で推進することのできなかった様々なデジタル化の取組に着手し始められるなど、取組の有効性が確認された。
- 2023年度には、県・市町共同で人材確保・育成を行うプラットフォームとして、「DXShip (デジシップ) ひろしま」を構築。人材確保については、県・市町で共通人材を採用・配属する取組も行っている。
- 広島県では、「情報職」の職員採用試験を行っているが、育成に一定の時間を要するため、市町のCIO補佐官に求められるビジネスデザイナータイプ等の即戦力については、民間事業者（ビズリーチ）も活用して採用。

募集結果

ポジション : CIO補佐官
募集期間 : 2023年9月26日～2023年10月23日
応募総数 : 113名
採用決定者 : 4名(システム開発コンサルティングの経験者、他官公庁でのDX推進の経験者など)



広島県

【CIO補佐官】広島県内、市と町のDX推進をリード

広島県では、デジタル田園都市国家構想のメンバーでもある湯崎知事のリーダーシップのもと、テクノロジーを活用した産業・地域課題解決の実証実験の場である「ひろしまサンドボックス」や公共土木施設等に関する情報を一元化・オープンデータ化する基盤「DoboX」の構築、全職員へのノートPC配備によるリモートワークの促進など、全国に先駆けてさまざまなDX施策に積極的に取り組んできました。

令和5年度からは県と市町で協働し「DXShip (デジシップ) ひろしま」というプラットフォームの運用を開始し「県内の情報システム人材の採用・育成」「情報共有やシステムの最適化」「DX推進体制の整備など」を行っています。具体的には県・市・町共同で採用を実施し、共通の情報システム人材として派遣する取組(人材プール・シェア制度)を進めています。

そこで今回は派遣先の市町において、さまざまな改革や挑戦をリードいただく「CIO補佐官」を募集いたします。

広島県内の市や町で、あなたの経験や能力を存分に発揮してみませんか？

※湯崎知事のお名前の「崎」は、右側の「大」が「立」となるのが正式表記です。

■募集期間：2023年9月26日～2023年10月23日